

全日本ロードレース選手権関係者各位

(一財) 日本モーターサイクルスポーツ協会
MFJ ロードレース委員会・MFJ セーフティ委員会

2026 年全日本ロードレース選手権シリーズ ヘルメット離脱システムに関する規則変更について

記

MFJ ロードレース委員会と MFJ セーフティ委員会は、2026 年より全日本ロードレース選手権シリーズにおいてのみ、ヘルメット離脱システムに関する規則変更を決定いたしました。

これまでのロードレース競技会においては、ライダーの安全を確保するため、“ヘルメットリムーバー”の着用を義務付けており、この規則が導入されてから 20 年が経過しています。

近年、“エマージェンシータブ”機能を備えたヘルメットが標準化されてきたことを受け、2024 年シーズンから全日本選手権に参加するメディカルスタッフを対象とした“エマージェンシータブ”機能の取り扱い講習を行い、あわせて意見収集を行いました。

その結果、両委員会により“エマージェンシータブ”機能の有効性が暫定的に認められ、2026 年シーズンから全日本ロードレース選手権においては、参加選手が次のいずれかを選択できる規則を導入します。

- 「“ヘルメットリムーバー”を着用したヘルメットの装着」
- 「“エマージェンシータブ”機能を備えたヘルメットの装着」

“エマージェンシータブ”機能とは、ヘルメットのチークパッドに取り付けられたタブを引くことでチークパッドが外れ、ヘルメットを離脱しやすくするシステムのことを指します。

※この規則変更は全日本ロードレース選手権のみが対象となり、地方選手権を含むそれ以外の競技会では、“ヘルメットリムーバー”の着用が義務付けられます。全日本選手権に参加される選手も、全日本選手権以外の競技会に参加される場合は、“ヘルメットリムーバー”の着用が義務付けられます。

以上